

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員の希望者全員の正社員化を。

めざせ、均等待遇。

なくそう差別！

ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！

# 九州地方本部 第7回地方委員会

# 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中郵支部  
機関紙・「みらい」  
NO. 3927  
19年2月1日(金)  
・Fax 095-828-1953

おはようございます

年末年始にかけての繁忙は少し落ち着いたように感じますが、各職場での業務運行はいかがだったでしょうか。身体も疲れていると思えます、インフルエンザは、弱った体に襲ってきますので、うがい、手洗い、栄養、睡眠をしつかりと行ってきたいものです。

1月27日、郵政産業労働者ユニオン、九州地方本部は第7回の地方委員会を開催しました。

この日は気温が下がり雪の予報もありましたが、長崎は快晴の中、役員、代議員そし



て傍聴者の組合員が参加しました。

まず、執行委員長の米地さんが挨拶を行いました。

その中で、郵政の慢性的な要員不足は解決されることが無く、労働条件の悪化は延々と続いており、職場労働者の大きな負担となっていることを指摘。そして人手不足の解消を理由の一つに、郵便物の土曜日配休を打ち出し、必要な要員を人事異動でまかなおうとしていることに、利用者のサービス低下に繋がりがかねないとして慎重な議論を行いました。

そして、郵政ユニオンメンバーが格差是正を求めて闘っている郵政20条裁判は、東日本、西日本共に判決が出るたびに格差是正へ大きく前進していかかわらず、一般職の住居手当の廃止や社員の年末手当の廃止を実施するなど、20条裁判で勝ち取った条件を亡き物にしようとしていることも指摘しました。

その後、来賓として向井中央執行委員長が挨拶を行いました。

その中でも郵政が18春闘において正社員の「待遇引き下げ」の回答は、同一労働同

一賃金をはじめとした待遇の格差是正に向けた政府での論議や、低く劣悪な労働条件に抑えられている非正規社員の処遇を引き上げていこうという社会の流れに反しています。労働政策審議会の同一労働同一賃金部会は、正社員の待遇を引き下げて格差を解消する企業の動きに対し、「望ましい対応とはいえない」としている事を述べました。

その後は各職場からの現状や質問等が発表されました。

その一部を紹介します。

土曜日の休配に伴う休日明けの要員配置が心配  
65歳定年の事が気になる

今年になって正社員が2名、一般職の方も辞めた魅力ある職場ではなくなっている  
メールを活用した安否確認システムの訓練のやり方を見直しはできないのか、



要員不足の慢性化、欠区など現場は大変な業務を強いられている、どうにかならないのか



やはり要員不足は現場での不安材料になっていることが多く、一刻も早い対策が必要と思われる。

また、土曜日の休配も関心が高くどうなるのか、不安に思っている方が多いようでした。

先日、正社員登用試験の合格者の発表がありました。  
日本郵政、日本郵便、ゆうちょ、かんぽ合わせた出願者数は、14098人。最終合格者は3833人

合格者の少なさもさることながら、出願者の少なさも問題です。魅力を感じられない一般職だからなのか、職場の将来に不安があるのか、など

要因を調べてほしいと思います。

来週2月9・10日に開催される第7回中央委員会の議案書には「退職の要因として第1位は、給与」、第2位がやりがい・達成感」という調査結果もあります。過重労働に依存しない働きやすい職場、労働するに値する適正な賃金体系の構築がなければ、今後も社員の流失が続き事業継続さえ赤信号がともると考えます」とあります。

19春闘では、希望が持てる職場、8時間働けば平和に人間らしく暮らせる「未来を目標し活動しよう」と思っています。



多くの意見が出され盛況のうち終わった委員会の後は近くの居酒屋さん懇親会を行いました。こちらも帰りの列車の時間ぎりぎりまで話が尽きず、懇親を深めることが出来ました。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1 集-山本, 2 集-向井, 3 集-山田, 郵便-高田, ゆうちょ銀-上筋, 東-松岡, 他支部・分会の役員へ。